京葉銀行のあゆみ

1940

1943年（昭和18年）3月
千葉合同無尽株式会社を設立
（設立日3月31日）

1950

1951年（昭和26年）10月
商号を株式会社千葉相互銀行に変更

1960

1965年（昭和40年）5月
本店新設

1970

1973年（昭和48年）4月
東京証券取引所市場
第2部に上場

1974年（昭和49年）
2月
東京証券取引所市場
第1部に上場

8月
外国為替業務開始
事務センター新設

1975年（昭和50年）4月
第1期オンラインシステム
稼働

1980

1983年（昭和58年）4月
国債等公共債の窓口販売
業務開始

1985年（昭和60年）11月
第2期総合オンラインシステム稼働

1986年（昭和61年）6月
債券ディーリング業務開始

1989年（平成元年）
1月
株式会社京葉銀カードを設立
（現・連結子会社）

2月
普通銀行へ転換し、商号を
株式会社京葉銀行に変更
コミュニケーションネームを
α（アルファ）バンクとする

1990

1993年（平成5年）5月
浜田頭取、第二地方銀行
協会会長に就任

1994年（平成6年）1月
信託代理店業務開始

1996年（平成8年）10月
新研修所完成

1998年（平成10年）
1月
新総合オンラインシステム
稼働

3月
株式会社京葉銀保証サービス
を設立（現・連結子会社）

12月
投資信託の
窓口販売業務開始

2000

2000年（平成12年）4月
ATMによる外貨預金の
取扱開始（千葉県内初）

2001年（平成13年）4月
保険商品の
窓口販売業務開始

2002年（平成14年）10月
個人年金保険の
窓口販売業務開始

2003年（平成15年）
5月
綿貫頭取、第二地方銀行
協会会長に就任

12月
ATMによる個人向け国債
の販売開始（全国初）

2005年（平成17年）6月
指静脈認証システム
全自動貸金庫の導入開始

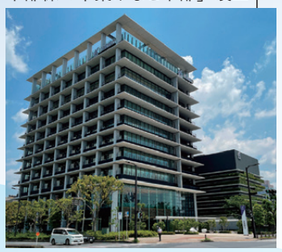
2009年（平成21年）5月
小島頭取、第二地方銀行
協会会長に就任

2010

2011年（平成23年）3月
新営業店システム全店導入

2012年（平成24年）3月
指静脈認証ICキャッシュカード
店頭即時発行業務開始

2015年（平成27年）3月
本部棟「千葉みなと本部」竣工



2016年（平成28年）6月
執行役員制度導入

2018年（平成30年）
6月
熊谷頭取、第二地方銀行
協会会長に就任

12月
指名報酬等諮問委員会設置

2019年（平成31年）4月
株式会社京葉銀キャピタル&
コンサルティングを設立
（現・連結子会社）

2020

2021年（令和3年）4月
第19次中期経営計画
「α ACTION PLAN 2024」
策定

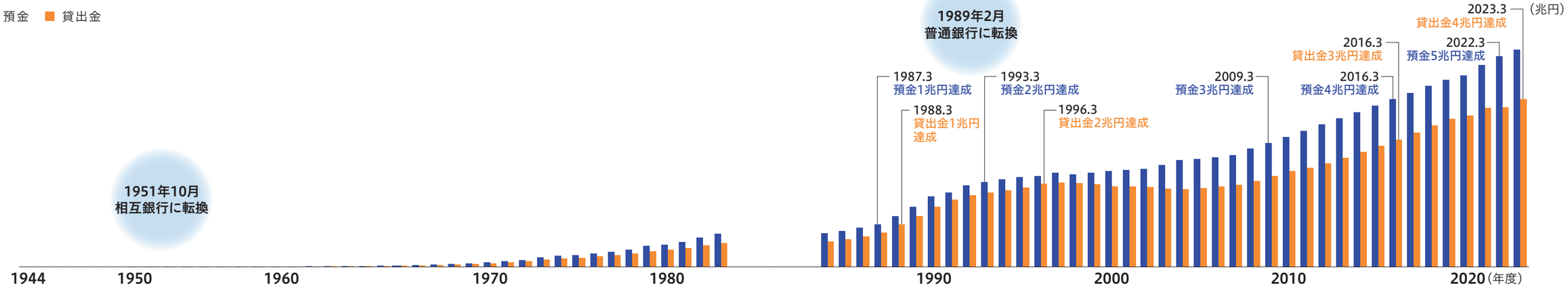
2022年（令和4年）4月
東京証券取引所
プライム市場に移行

2023年（令和5年）
3月
創立80周年

80年の感謝を込めて

6月
熊谷頭取、第二地方銀行
協会会長に就任

創業からの預金と貸出金の残高推移（年度末）



トップメッセージ

確かな“きずな”を、未来へ。

取締役頭取　熊谷 俊行

はじめに

平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当行は2023年3月、創立80周年を迎えました。これもひとえに地域の皆さまからの永年に亘るご愛顧の賜物であり、役職員一同、心から感謝を申し上げます。

創立90年、100年の未来に向け、時代のあらゆる変化に柔軟に適応し、これまで以上に地域に根差した経営の実践とプラスアルファを提供し続けることで、地域のお客さまとともに「成長の好循環」を生み出してまいります。

環境認識

2022年度の金融経済情勢を顧みますと、わが国経済は、新型コロナウイルス感染症抑制と経済活動の両立が進むもとで、個人消費を中心に緩やかな持ち直しの動きがみられました。一方で、国際情勢に起因するエネルギーや原材料の不足を背景にした世界的なインフレ圧力の高まりにより、各国で大幅な金融引き締め政策が実施されるなど、不確実性が増す1年となりました。

当行の営業基盤である千葉県経済においても、個人消費や雇用情勢においては、総じて緩やかな回復基調となりましたが、生産活動の一部には供給面での制約や原材料価格の高騰による弱い動きがみられました。

こうした経済情勢に加え、地域金融機関を取り巻く経営環境は、低金利環境の長期化や少子高齢化・人口減少の進行のほか、ライフスタイルの多様化やデジタル技術の進展を背景にして大きく変化し、そのスピードは一層増しています。お客さまの課題やニーズも年々、多様化・高度化しており、当行グループは金融サービスのさらなる進化に取り組む必要があると考えております。

当行が主な営業エリアとする千葉県は、東京湾と太平洋に接する地形、豊かな自然、穏やかな気候により、農漁業や観光資源にも恵まれていることに加え、都心へのアクセスも良好なことから、子育て世代を中心として若い世代の転入増加が続いています。また、製造業にとって重要な臨海エリアを有するとともに、物流・人流を支える高速道路・鉄道網および成田空港などの交通インフラ整備が益々進むなど、中長期的な経済成長へのポテンシャルを有しています。当行はこの肥沃なマーケットである千葉県全域に店舗ネットワークを展開し、地域企業や自治体などと強固なリレーションを構築しています。こうした社会・関係資本に当行の財務資本、人的資本、知的資本などを併せて活用した事業活動を通じて、すべてのステークホルダーの皆さまのさらなる成長、発展に貢献してまいります。

2022年度の決算概要

当行グループは2021年度に、第19次中期経営計画「α ACTION PLAN 2024～さらなる進化～」をスタートさせました。

2年目となる2022年度において、業績面では、法人のお客さま向けのソリューション関連手数料が順調に推移したほか、店舗体制の見直しによる物件費全般の削減、お客さまに寄り添った対応による与信関連費用の抑制などで、概ね計画通りの経営成績となりました。

施策面では、3年を超えるコロナ禍や物価上昇の影響を受けているお客さまの資金繰り支援を徹底するとともに、アフターコロナに向けた本業支援や社会的要請ともいえるサステナビリティにかかる取り組みなどを強化しました。

また、2021年8月に締結した株式会社りそなホールディングス（以下、りそなHD）との戦略的業務提携の施策として、新しいバンキングアプリ開発に係る基本合意書を締結したほか、シンジケートローンの共同組成や商談会の共催、資産運用商品の取扱開始、本部および営業店における人財交流などに取り組みました。今後も、デジタル・ソリューション・人財育成の3つの分野において、相互に情報・ノウハウを活用することで地域の皆さまに最適なソリューションをお届けしてまいります。

中期経営計画の進捗状況

本年度は中期経営計画の最終年度となります。計画で掲げた3つの基本戦略に基づき、経営環境の変化にも揺るがない、持続可能なビジネスモデルの構築を図っていくとともに、「お客さまに信頼と利便性、高い満足度を提供する魅力のある、活力あふれる銀行」を目指し、これまで以上に地域経済へ積極的に貢献してまいります。

<基本戦略①　課題解決型営業の強化>

地域社会やお客さまの多様化・高度化する課題やニーズを発掘し、解決策の提示と実行支援を実践するため、京葉銀行グループ一体でソリューション営業態勢の高度化を図るとともに、戦略的外部パートナーとの連携・協業にも積極的に取り組んでおります。

法人のお客さまに対しては、2022年度において、長引くコロナ禍で変化した経営環境への対応をサポートするため、経営改善計画策定支援へ積極的に取り組んだほか、資本に踏み込んだ「資本性劣後ローン」の活用や生産性向上を後押しするICT（情報通信技術）コンサルティングサービスを本格稼働させました。

本年度においても、経営者との深度ある対話を起点として、金融仲介機能を発揮したソリューションの提供とともに、事業再構築に向けた補助金活用や脱炭素化などの取り組みをサポートする伴走型支援を実践することで、お客さまの持続的な成長をサポートしてまいります。加えて、グループ会社である京葉銀キャピタル&コンサルティングなどと共同で設立した事業承継ファンドを活用するなど、深刻な社会課題となっている中小企業の事業承継問題への対応強化を図ってまいります。

個人のお客さまに対しては、2022年6月、きめ細かなコンサルティングを通じて、お客さま一人ひとりのライフプランに合った最適な資産運用を提供するため、りそなHDとの提携施策として「京葉銀行ファンドラップ」の取り扱いを開始したほか、高まる相続・資産承継ニーズにお応えするため、信託・相続サービスの取り組みを強化しました。

引き続き、「人生100年時代」における家計の資産形成・資産運用・資産承継に資する商品・サービスのラインアップ拡充を図るとともに、「お客さま本位の業務運営に関する取組方針」のもと、お客さまの最善の利益の追求に向けて質の高いコンサルティングやアフターフォローの充実などに取り組んでまいります。

<基本戦略②　生産性の向上と人財の育成>

デジタルを活用し、当行とお客さま双方の生産性向上を図るとともに、課題解決を行うための人財育成に努めております。

デジタル技術を通じてお客さまや地域社会へ新たな価値を提供するため、2022年4月、中長期的なデジタル戦略「POLESTAR計画」を策定しました。CX（顧客体験）とEX（行員体験）を進化させた施策として、スマートフォンなどからいつでも予約可能な「来店予約サービス」の全店拡大や、住宅ローン手続きの簡素化につながる「電子サイン契約」の取り扱いを開始したほか、来店不要でお取引が完結できる「投信口座Web開設サービス」などを開始し、お客さまの利便性向上に取り組みました。

なお、当行のこうした戦略・体制・取り組みなどが評価され、2022年10月に経済産業省より「DX認定事業者」の認定を受けました。

人財育成においては、当行グループは人材を人財と捉え企業価値向上の重要な資本と位置づけており、多様な専門人材を育成するため、外部との人員交流や中途採用を拡大しました。

本年度においても、実践形式の研修カリキュラムを拡充し、知識・スキルの向上に取り組んでおります。また、年功序列から脱却した上位ポストへの積極的かつ適正な登用に加え、女性やシニア行員の活躍ステージを拡大させることで、組織の活性化と「ダイバーシティ&インクルージョン」を推し進めてまいります。

<基本戦略③　経営基盤の強化>

リスクとコストを適切にコントロールすることで、経営基盤の強化に取り組んでおります。

信用リスクにおいては、ゼロゼロ融資の返済本格化を控え、将来の引当の充分性を確保したほか、市場リスクにおいては、適切なリスクコントロールを行いつつ収益確保を目指す体制を整備しました。

引き続き、経営の健全性を維持しつつ収益を拡大していくため、統合的リスク管理の高度化を図るとともに、お客さまサービスの向上に資する前向きな投資は維持しつつも生産性向上を通じた経費削減により、経営基盤のさらなる強化に取り組んでまいります。

サステナビリティへの取り組み

サステナビリティやカーボンニュートラル、SDGsといった言葉は、いまや世界共通の言語であり、地域金融機関にはさまざまな社会的役割が求められています。

持続可能な社会の実現と当行グループの企業価値向上の両立を目指し、2022年度には「サステナビリティ委員会」を設置したほか、「ESG関連投融資目標」を設定しました。

本年度においても、サステナブルファイナンスなどの取り組みを通じたお客さまのサステナビリティ経営の高度化や環境保全活動への支援に積極的に取り組むとともに、TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）提言に沿った開示項目の充実を図ってまいります。

終わりに

本年度は中期経営計画の最終年度を迎え、計画計数で掲げる経営指標の達成に向け、各戦略・施策の取り組みを加速してまいります。

これからもすべてのステークホルダーの皆さまとの「確かな“きずな”を、未来へ。」とつなげるため、京葉銀行グループ役職員一同さらなる努力を重ねてまいります。皆さまのご信頼、ご期待にお応えし、地域経済の一層の発展・成長に向けて取り組んでまいりますので、引き続き格別のご支援、ご高配を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

2023年7月

創立80周年記念事業の展開

80年の感謝を込めて

私たち京業銀行は2023年3月31日、おかげさまで創立80年を迎えることができました。
永きにわたるご愛顧に、心から感謝申し上げます。
役職員一同、創立90年、100年の未来に向け、これからもプラスアルファを提供し続け、
地域の皆さまとともに歩んでまいります。

ロゴマーク、キャッチフレーズの制定

ロゴマークは、地域の人々との絆や繋がりを多角的な輝きの結晶で表現し、SDGsへの取り組みを意識した配色とコーポレートカラーであるロイヤルブルーを使用しています。キャッチフレーズには、80年のこれまでの感謝の気持ちとこれからも地域の皆さまとともに歩んでいきたいという想いを込めています。

各種施策（実施予定のものを含みます）

お客さま向け施策

各種キャンペーンの実施

〈環境配慮型住宅ローン金利優遇キャンペーン〉
【期間：2022年12月 5日～2023年 9月30日】
環境配慮型の住宅を購入・建築され、住宅ローンをお借り入れいただくお客さまに、キャンペーン金利を適用させていただきます。

〈フリー住宅ローン選べるプレゼントキャンペーン〉
【期間：2022年12月 5日～2023年 9月29日】
フリー住宅ローンをお借り入れいただいたお客さまに、抽選で選べるプレゼントをご用意しています。

〈年末ジャンボ宝くじ付定期預金〉
【期間①：2022年12月19日～12月25日】上限金額100億円
【期間②：2023年 1月16日～ 1月22日】上限金額 80億円
多くのお客さまに“夢”をお届けする宝くじ定期預金は、発売以来大変ご好評をいただいており、募集枠を追加しました。

〈はじめての投信つみたて・NISAキャンペーン〉
【期間：2023年 2月13日～ 5月31日】
「京葉銀行80周年記念品交換サイト」で使える専用ポイントを抽選で80名さまにプレゼントしました。加えて、NISA口座を新規開設いただいたお客さまに、1,000円キャッシュプレゼントを実施しました。

〈デジタルギフトプレゼントキャンペーン〉
【期間：2023年 6月 1日～ 8月31日】
京葉銀行カードローンⅡ型（住宅ローンご利用者限定カードローン）をご契約いただいたお客さまに、デジタルギフト（Amazonギフトカード1,500円分）をプレゼントします。

〈80周年ありがとう定期預金キャンペーン〉
【期間：2023年 6月15日～ 9月29日】
新たに定期預金を20万円以上お預け入れいただくと、抽選で200名さまに「京業銀行80周年記念品交換サイト」の専用ポイント20,000ポイントをプレゼントします。

〈サマージャンボ宝くじ付定期預金〉
【期間①：2023年 8月 1日～ 8月18日】上限金額100億円
【期間②：2023年 9月13日～ 9月29日】上限金額 80億円
幅広くご利用いただけるよう、募集枠を追加します。

地域の皆さま向け施策

ショーウィンドーギャラリーでの展示

2022年10月より、本店および千葉みなと本部に設置するショーウィンドーギャラリーにて千葉県の観光スポットを展示しています。地域の皆さまが改めて足を運びたくなるような、千葉県のあふれる魅力をお楽しみください。

災害対策ドローンの寄贈および講習会の開催

2023年2月、災害発生時の初動対応に活用していただくことを目的に、千葉県へ災害対策ドローンを贈呈しました。ドローンは千葉県庁ならびに県内10カ所の地域振興事務所に設置され、災害時のみならず農林水産業をはじめとした各産業の振興に活かす基礎データ収集などにも活用されます。
また、4月には実機を使った操作や必要な知識を学んでいただくため、千葉県職員に向けた講習会を開催しました。

「伊能図展」の開催

2023年3月、2日間に亘り「みんなで歩こう伊能図展～日本初の実測地図に触れてみよう！～」を開催し、合計で約1,700名の方が来場されました。
当行は、香取市佐原地区の地方創生を支援しており、同地区の発展に尽力した伊能忠敬をブランドキャラクターに採用しています。今回のイベントでは、千葉県が誇る偉人の足跡を広く知っていただくため、測量ルートや「伊能図（中図）」の説明が書かれたパネルの展示に加え、伊能忠敬とその弟子たちが自ら歩いて完成させた「伊能図（中図）」をフロアに敷き、その地図の上を歩いていただきました。

デジタルスタンプラリーの実施

2023年3月31日から7月31日まで、地域経済活性化を後押しする「京葉銀行創立80周年記念デジタルdeスタンプラリー」を実施しています。

千葉県内を12の地域に分け、飲食店や観光施設、宿泊施設などのチェックポイントを利用することでスタンプを取得し、当行のブランドキャラクター伊能忠敬のように地図の完成を目指すイベントです。

「タウントレックｉｎ ＣＨＩＢＡ」に特別協賛

2023年5月、「タウントレック in CHIBA」に特別協賛しました。

タウントレックとは制限時間内に地図上のチェックポイントをめぐり、得点を集める体験型街歩きイベントです。イベントを通して皆さまに千葉市の魅力を再発見していただくとともに、地域の賑わいを創出しました。

本店営業部前に憩いのスペースを設置

2023年8月、本店営業部前の歩道上に「いつでも、だれでも、気持ちよく」ご利用いただける憩いのスペースを設置する予定です。

ウォーカブルな空間づくりに貢献することで、本店営業部が立地する千葉駅前大通りの人流増加や賑わい創出を後押しします。また、このスペースが地域の皆さまに末永く親しまれてほしいとの思いから、「愛称」を公募しています。

※完成予想図

地域の子供たち向け施策

こどもエコまつり開催

2022年10月、環境やSDGsを楽しみながら学ぶ「こどもエコまつり」を開催しました。当行は千葉大学環境ISO学生委員会と協同で千葉大学×京葉銀行ecoプロジェクトを実施しており、子供たちがゲームや工作でSDGsを学ぶワークショップのほか、千葉ジェッツユースチームが協力するミニゲームも実施され、多くの親子連れで賑わいました。

金融経済教育の実施

2022年10月、学校法人市川学園にて、学生たちの金融リテラシー向上に加え、地域金融機関としてお客さま、地域の皆さまの未来に向けて果たすべき社会的役割について理解を深めていただくことを目的に、頭取が講演を行いました。

野球教室の開催

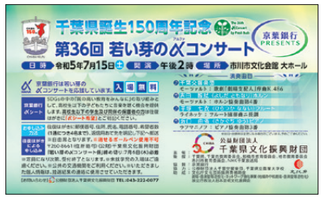
「地域スポーツ振興」や「心と身体の健康づくり」などをテーマに、将来の地域社会を担う子供たちの成長を後押しするため、当行野球部による野球教室を定期的に行っています。

2023年1月には四街道市内の中学生女子ソフトボールチーム、2月には千葉市中学生軟式野球選抜チームと野球教室を行い、技術的な指導に加え、挨拶や礼儀の大切さについて伝えたほか、それぞれのチームへボールを寄贈しました。

「第36回 若い芽のαコンサート」に協賛

千葉県にゆかりのある若手演奏家の育成と芸術文化の振興を目的に、「若い芽のαコンサート」に毎年協賛しています。

2023年7月の「第36回 若い芽のαコンサート」では、希望した高校生以下の子供たちにプロオーケストラの音楽を聴く機会を提供しました。



株主さま向け施策

株主優待制度の拡充

幅広く株主優待をご利用いただけるよう、2022年12月より優待制度を拡充しました。「金利優遇コース」に加え、個人株主の皆さまにWebにてお申し込みいただく「宝くじコース」をご用意し、店頭へのご来店が難しい株主さまもご利用いただけるようになりました。

記念配当の実施

株主の皆さまへ日頃のご愛顧に感謝し、2023年3月期中間および期末配当で、それぞれ1株あたり50銭、年間1円の記念配当を実施しました。

グループ役職員向け施策

バリューアップ80の実施

2022年10月より、職員が「自己啓発・リスキリング」「健康経営」「SDGs」の各分野から自分自身の価値を高める項目に挑戦し、達成するとポイントを付与する「バリューアップ80」を実施しています。

職員一人ひとりの成長と健康増進を図り、お客さまへより付加価値の高いサービスを提供し続けることで、地域の皆さまとともに成長の好循環を目指してまいります。

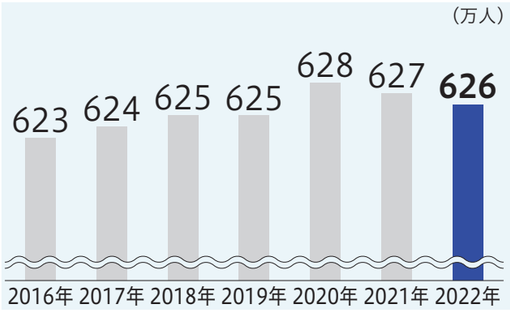
主要マーケットのポテンシャル

当行が主な営業エリアとする千葉県は、農業、漁業、工業、商業がそれぞれ全国トップクラスのバランスのとれた産業構造を形成しています。また、人口の転入超過や交通インフラの整備が一段と進んでいることに加え、海などの豊かな自然は観光資源にもなり、今後のさらなる発展、成長が見込まれる高いポテンシャルを有しています。

転入超過が続く人口動態

千葉県の人口は626万人で、全国6位の人口規模となっており、他県からの転入超過数は全国4位を誇ります。首都圏に位置しながら豊かな自然に恵まれていることに加え、交通アクセスの良さから、子育て世代を中心とした若い世代の転入が増加していることが特徴です。

■ 千葉県人口推移



出所：総務省統計局「人口推計」（基準日：各年10月1日）

■ 都道府県別転入超過数（日本人移動者）

1位	東京都	33,909人
2位	神奈川県	22,492人
3位	埼玉県	19,270人
4位	千葉県	18,740人
5位	福岡県	8,886人

出所：総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告2022」

バランスの良い産業構造

千葉県は、温暖な気候や首都圏の大消費地を背景として、農業産出額や海面漁業漁獲量は全国上位に位置しています。また、臨海エリアの製造業に加え、高速道路・鉄道網といった交通インフラが整備され、工場進出先としての魅力がますます高まるなど、バランスのとれた産業構造を形成しています。

農業産出額	3,471億円	6位※1
製造品出荷額	11.9兆円	8位※3
事業所数	18.2万ヵ所	9位※5
港別貿易額の合計	39.9兆円	1位※7
海面漁業漁獲量	10.2万t	6位※2
年間商品販売額	13.0兆円	9位※4
開業率*	5.0%	4位※6
県内総生産（名目）	21.2兆円	7位※8

出所：※1 農林水産省「令和3年農業産出額及び生産農業所得」
※3 総務省・経済産業省「令和3年経済センサス（製造業）」
※5 総務省・経済産業省「令和3年経済センサス-活動調査速報集計」
※7 財務省「令和3年貿易統計」輸出と輸入の総額
（千葉県は成田国際空港、千葉港、木更津港の合計）
※2 農林水産省「令和4年漁業・養殖業生産統計」
※4 総務省・経済産業省「令和3年経済センサス（卸売業・小売業）」
※6 中小企業庁「2023年版中小企業白書」
＊ 開業率…当該年度に雇用関係が新規に成立した事業所数／前年度末の適用事業所数
※8 内閣府「令和元年度県民経済計算」

充実した交通インフラと地理的特徴

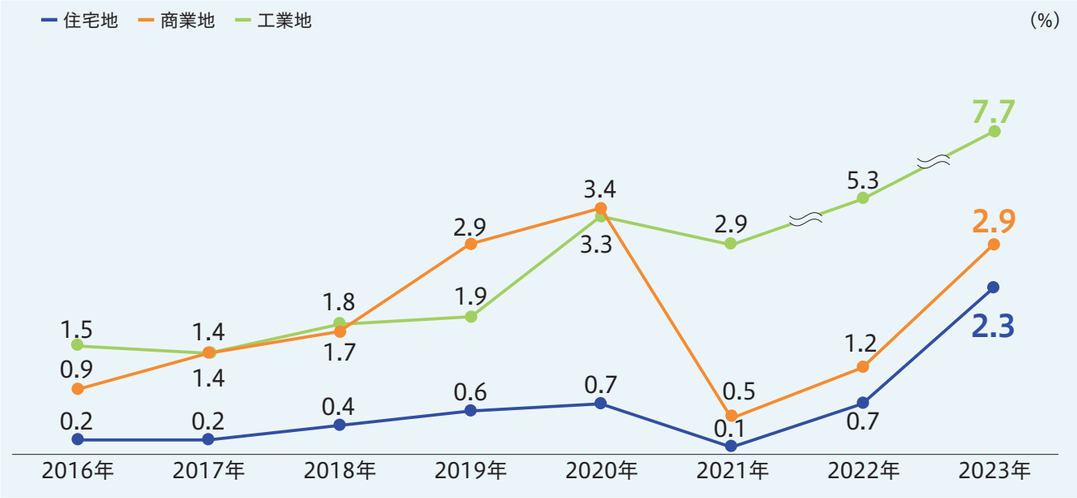
2029年3月完成予定の成田空港第3滑走路や開通に向け工事進行中の圏央道大栄JCT～松尾横芝ICなど、交通インフラの整備が一段と進んでいます。さらに、北千葉道路や第二湾岸道路の道路整備計画が進行中であり、流通機能のさらなる拡充が予想されています。

また、成田空港と東京都との中間に、アジア地域有数の規模を誇る大型コンベンション施設である幕張メッセを有するなど、千葉県は物流、人流を支えるインフラや施設が充実し、日本と世界をつなぐ重要な拠点を担っています。

需要増に伴い上昇が続く公示地価

転入超過や産業構造、交通インフラを背景に、千葉県の公示地価は全用途で上昇が続いています。

■ 千葉県の公示地価（対前年平均変動率）の推移



出所：千葉県「地価公示」（基準日：各年1月1日）

価値創造プロセス

目指す銀行像　お客さまに信頼と利便性、　高い満足度を提供する魅力のある、活力あふれる銀行

事業に影響を与える外部環境要因

- コロナ禍
- 少子高齢化・後継者不足
- 低金利環境の長期化
- ライフスタイルの変化
- 急速なデジタル化
- 規制緩和
- SDGs

サステナビリティにおける重点項目（SDGs宣言）

参照 P.35

地域経済・社会

お客さまや地域の課題解決を支援することで、地域経済の発展に貢献してまいります。

ダイバーシティ＆インクルージョン

個人の多様性を尊重し、誰もが仕事や生活を充実させ、自分らしく活躍できる社会づくりに貢献してまいります。

環境保全

社会全体の環境負荷低減と環境保全に取り組み、低炭素・循環型社会の実現を目指してまいります。

活用する資本

財務資本（2023年3月）

預金残高	5兆3,029億円
貸出金残高	4兆877億円
自己資本比率(連結)	10.88％

人的資本（2023年3月）

従業員数	1,911人
広範な専門人財	
中小企業診断士	19人
社会保険労務士	23人
証券アナリスト	11人
FP1級（CFP含む）	122人

知的資本

- 京葉銀行グループ一体での多様な情報・ソリューション
- 地域に精通した知見･ネットワーク

社会・関係資本

- 強固な営業基盤
- 地域に密着した店舗網
- 主要マーケットのポテンシャル

京葉銀行のビジネスモデル

参照 P.19

第19次中期経営計画

ACTION PLAN 2024

～さらなる進化～

課題解決型営業の強化

地域社会やお客さまの課題を発掘し、解決策の提示と実行支援に取り組む営業を強化します。

生産性の向上と人財の育成

デジタルを活用し、当行とお客さま双方の生産性向上を図るとともに、課題解決を行うための人財を育成します。

経営基盤の強化

リスクとコストを適切にコントロールすることで、経営基盤を強化し、地域とともに持続的な成長を目指します。

成長を支える基盤

コーポレート・ガバナンス	コンプライアンス	リスク管理
参照 P.49	参照 P.54	参照 P.58

サステナビリティの実現

本業における取り組み

本業を通じた共通価値の創造

事業者としての取り組み

気候変動等社会的課題への貢献

経営基盤構築の取り組み

中長期的な企業価値向上

ステークホルダーへの貢献

お客さま

- 幅広い商品・専門性の高いソリューションの提供
- “いつでも・どこでも・便利で安心・快適”な金融サービスの提供

株主

- 透明性の高い情報開示と積極的な対話
- 株主還元の充実

地域社会

- 地域経済の活性化
- 環境負荷の低減

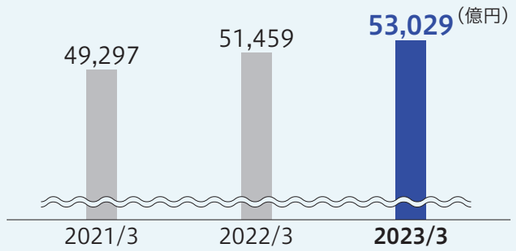
従業員

- 働きがいのある職場
- 多様な働き方とワークライフバランスの実現

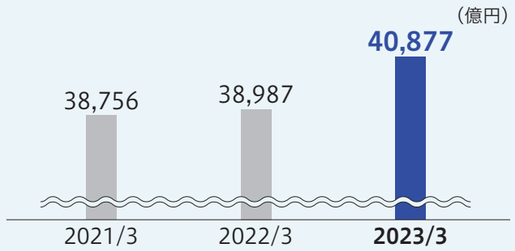
価値創造の循環による持続的な企業価値の向上

財務ハイライト（単体）

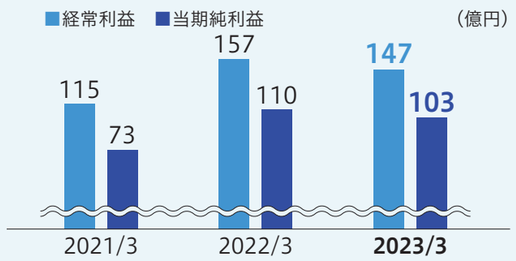
預金残高 5兆3,029億円



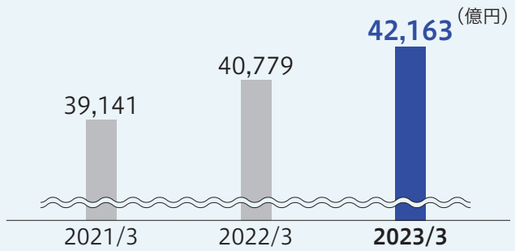
貸出金残高 4兆877億円



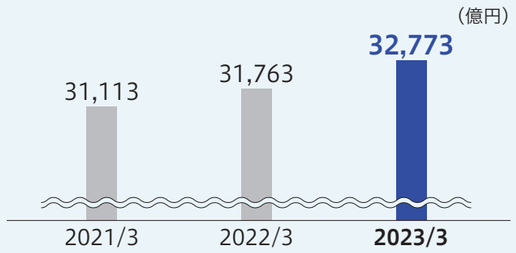
経常利益 147億円　当期純利益 103億円



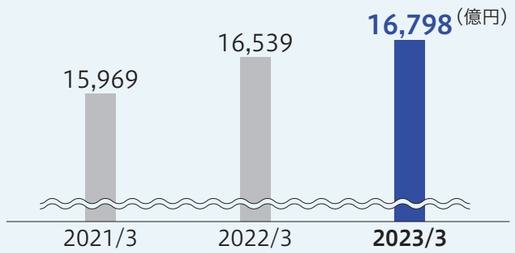
個人預金残高 4兆2,163億円



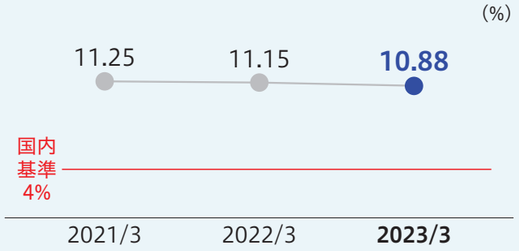
中小企業等向け貸出金残高 3兆2,773億円



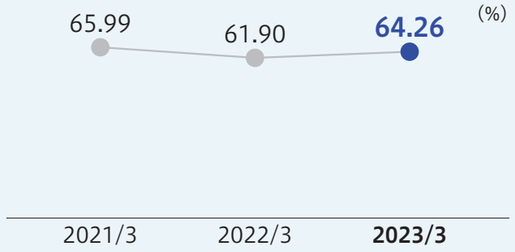
住宅ローン残高 1兆6,798億円



自己資本比率 10.88%



OHR 64.26%



※ 数字が小さいほど効率性が高いことを示します。

非財務ハイライト

ESG関連投融資額
1,935億円
2021年4月1日～2023年3月31日

SDGs寄付型私募債累計実績
【2020年8月から取扱開始】
受託件数 276件
寄付額 4,066万円
2023年3月31日現在

育児休業取得率
男性 100%
女性 100%
2022年4月1日～2023年3月31日対象者

指導的地位に占める女性比率
【係長以上の役付行員】
30.8%
2023年4月1日現在

社外取締役比率
40.0%
2023年6月28日現在

女性取締役および執行役員
2人
2023年6月28日現在

格付情報

日本格付研究所（JCR）
A+

S&Pグローバル・レーティング
A-

（2023年6月30日現在）

外部からの評価

プラチナくるみんプラス

イクメン企業アワード2018 両立支援部門

えるぼし

健康経営優良法人2023（大規模法人部門）

DX認定事業者